

平成29年度実践的安全教育総合支援事業成果報告書

教育委員会名：一戸町教育委員会

【一戸町立一戸南小学校】

I 事業の概要（地域の実情含む）

- (1) 地域の様子や過去の災害について知り、災害や安全な避難方法について理解を深め、安全な行動をとるための判断力を高めていく。
- (2) 台風被害の復旧支援に携わった方々からの体験談を聞き、被害の様子や災害時における危険を認識するとともに、自らも学校周辺や地域の特性を踏まえ災害（水害・土砂災害・地震災害）に応じた行動の仕方を身につけていく。
- (3) 災害発生時及び事後に、他の人々や地域の安全に役立つとする児童の育成を目指す。

II 取組の概要

- (1) 避難訓練（火災）【4月20日】
避難経路及び避難場所の確認と防煙シャッターを
通って避難する訓練を実施。



- (2) 児童引き渡し訓練【5月20日】
台風の接近による荒天を想定した引き渡し訓練
を実施。



- (3) AEDを用いた心肺蘇生講習会及び授業
ア 1年生の保護者対象の講習会を開催
講師：二戸消防署 一戸分署 署員【6月22日】
イ 5・6年児童を対象に心肺蘇生法の授業を実施
授業者：5・6年担任【8月29日】

- (4) 防災講話及び避難訓練（洪水）【9月5日】
ア 町内で起こりうる災害について学ぶ。
講師：二戸消防署 一戸分署長 日山 氏
イ 学校側の馬淵川洪水を想定した訓練を実施。
町内会役員の方々にも参加していただいた。



- (5) 減災ポケット「結」プロジェクト出前授業
【9月25日】
講師：東北大学災害科国際研究所 保田 氏
- (6) 避難訓練（地震・休憩時間）【11月16日】
緊急地震速報を活用した訓練を実施。
指導助言：岩手県防災サポーター 古里 氏





(7) 公開授業（授業参観日）【11月25日】

ア 3年生「防災グッズを知ろう」

イ 4年生「地域防災マップ発表会」



(8) 命を守る防災のお話

平成28年の台風10号による岩泉町内の被害の様子を聞き、命を守ることを学ぶ。

講師：岩泉消防署長 佐々木 重光 氏



(9) 地域防災マップ発表会【12月15日】

4年生が作成したマップを他学年にも伝え、防災意識を高める。町総務課の防災担当職員の方にも見ていただき、助言をいただく。



Ⅲ 取組の成果と課題

1 成果

- (1) 専門家による災害時の様子や対処方法などを聞く学習会を通して、災害についての正しい知識や発生時の対処法、日常の防災に対する備えなどについて学ぶことができた。
- (2) 地域の防災マップを作成し、取組の成果を発表する機会を設定したことにより、保護者や地域、他学年にも発信し、防災の意識を高めるよい機会となった。
- (3) 避難訓練等の実施後は、振り返りを大事にしてきたことで、どのように行動したらよかったかを考える機会となり、防災意識の向上が図られた。
- (4) 防災の学習を進める上で、ワークシートを活用し、個人用の防災ファイルを作成し、シートを綴じ込んでいくようにした。シートは家庭に持ち帰り、学校での学習を家族との話し合いへとつないでいくものにしたことで、保護者の防災意識も向上してきた。
- (5) 5月と12月に実施した防災意識調査のアンケートを実施した。5月の調査では、「家にいる時や通学途中に地震が起きたら」「自分の住む地域で起きやすい災害」「大雨が降ったら身を守るためにどうする」などに対して、どのように行動するか「わからない」「思いつかない」児童が20%弱いたが、12月の調査では5%程度までに減少した。また、保護者の意識調査の結果をみると、災害について家族と話し合う機会が5月は約73%だったが、12月には約83%まで増加した。

2 課題

- (1) 児童はアンケートの中で「学校で避難訓練をすることは必要」と全員が回答している。この訓練がマンネリ化しないように、自分で判断させるようなプログラムを組んでいく必要がある。
- (2) 家庭の防災意識を向上させていくためには、子どもから親へ防災教育の内容を話題にしてもらうがよいのではないだろうか。そのためにも、学校での防災教育に親も巻き込んでいくようなプログラムも組んでいく必要がある。

【一戸町立一戸中学校】

I 事業の概要（地域の実情含む）

- 地域の様子や過去の災害について知り、災害や安全な避難方法について理解を深め、安全な行動をとるための判断力を高めていく。
- 台風被害の復旧支援に携わった方々からの体験談を聞き、被害の様子や災害時における危険を認識するとともに、自らも学校周辺や地域の特性を踏まえ災害（水害・土砂災害・地震災害）に応じた行動の仕方を身につけていく。
- 災害発生時及び事後に、他の人々や地域の安全に役立つようとする生徒の育成を目指す。

II 取組の概要

(1) 地域防災マップの作成

ア 地域調査活動

地域の様子や過去の災害から、危険箇所の確認を通して、安全な登下校や緊急時の避難方法について理解を深め、安全な行動をとるための判断力を高めるために、校外班単位に分かれ、居住地域にある避難所、危険と思われる箇所を記録した。



イ 地域防災マップづくり

7月の調査活動で記録した写真を、カラー大判の地図にコメントと場所の印をつけて貼り付ける。



ウ 地域防災マップ学習会

一戸町役場職員により、作成した地域防災マップの講評と、地図や過去の水害等からの経験を元に、危険地帯の指導と実際の避難するときの注意事項などの学習会を行った。



(2) AEDを用いた心肺蘇生研修

1年生の親子行事として、二戸消防署一戸分署員を招いて、人工呼吸法、心肺蘇生法、AEDの使用法等の習得及び救急車到着までの応急手当の重要性について理解を深め、災害・緊急時の自主救護能力と救命率の向上を目指した。



(3) 防災学習のための岩泉町訪問

平成28年の台風10号被害の復旧支援に携わった岩泉消防署長佐々木重光氏から体験談を聞き、被害の様子や災害時における危険を認識するとともに、学校周辺や地域の特性を踏まえた災害時の行動の仕方を身につけるように学習した。



(4) 防災教育に係る授業公開

一斉参観日に、生命の尊さを理解し、災害の恐ろしさやそれに立ち向かう人々の生き方に学び、地域に貢献できる人間になるように努力する心を養うことを目的とし、副読本「いきる かかわる そなえる」を活用した授業を全学級で行った。



(2) 課題

ア 被災地訪問や地域防災マップづくり、それに伴う学習会など、防災への意識向上に大いに役立つ学習となったが、3年生が中心の取組であったため、1・2年生についても作成した地域防災マップの閲覧や学習会など、全校での防災学習が必要である。

イ 今後、一戸町でも防災マップが作られる予定もあり、学校だけでなく地域と連携した防災意識を高める取組の在り方を検討・実践していく。

Ⅲ 取組の成果と課題

(1) 成果

ア 一戸町では、1月末に「いちのへ未来議会」が行われ、2年生の生徒会執行部の生徒が、議会質問を行っている。その中で、「町の災害予防の状況」や「避難所の数と備蓄状況」の質問を行うなど、生徒の水害、土砂災害に対する知識、災害に対する危機意識、地域防災に対する関心が高まった。



イ 地域防災マップづくりや学習会で行ったことで、防災に対する関心を高め、避難するときの注意すべきことや行動しなければならないことの理解を深めることができた。

特に、「災害時の避難場所を知っているか」という項目に対し、6月のアンケートでは「知っている」という生徒が26%だったのに対し、1月のアンケートでは90%となったこと。「災害時の備え」については、どの項目についても「備えをしている」という回答が増加したこと、「わからない」という回答が減少したことから、学習を通しての理解が深まったといえる。

(別紙アンケートおよび結果)

ウ 「いわての復興教育副読本」を活用し、災害発生時に対して「そなえる」ことの重要性や、中学生として被災時にどのように行動すべきか、ということへの意識を高めることができた。

(別紙：授業プリント)